

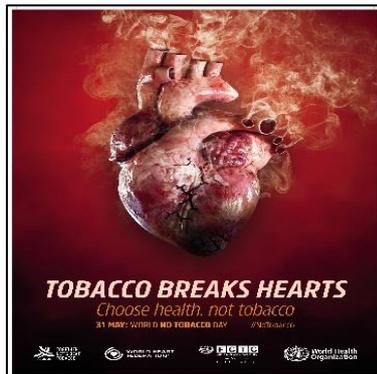
5月31日(木)は世界禁煙デー 5月31日(木)～6月6日(水)は禁煙週間です！

WHO(世界保健機関)は、5月31日を「世界禁煙デー」と定め、喫煙しないことが一般的な社会習慣となることを目指した活動を開始しました。日本においても、世界禁煙デーに始まる1週間を「禁煙週間」と定め、禁煙対策の推進を図っています。

*WHO 世界禁煙デー2018のテーマ：Tobacco Breaks Hearts—

Choose health, not tobacco

(タバコは心臓を破壊します。タバコではなく、健康を選びましょう。)



米国のFramingham Study(米国フランingham地域で実施された循環器疾患大規模発症要因調査)によると、喫煙者が心筋梗塞や狭心症などの虚血性心疾患になる危険性は、非喫煙者の2～3倍といわれています。

日本においても、NIPPON DATA(1980-90の循環器疾患基礎調査)において、喫煙者は非喫煙者に比べて心筋梗塞や狭心症などの虚血性心疾患や脳卒中による死亡の危険性が1.7倍となるという報告があります。



健康トピックス情報

〈新型たばこの話〉

「新型たばこ」も「たばこ」です!

◎ 「新型たばこ」が健康被害に低減につながるという考えには根拠がない?

新型たばこは、従来の燃焼式たばこより健康被害のリスク低減になると、急速に広がっていますが、新型たばこの使用と、病気や死亡との関連や、新型たばこによる受動喫煙の健康リスクについての科学的根拠は得られていません。新型たばこの健康被害の評価はこれからであり、安全性が証明されているものではないことを覚えておきましょう。

*日本呼吸器学会は、新型たばこについて、「健康に悪影響を与える可能性がある」「使用者にとっても、受動喫煙させられる人にとっても、推奨できない」という見解を公表しています。

◎ 「新型たばこ」は禁煙成功率を低下させる?

国立がん研究センターの調査によると、新型たばこを使用した人は、禁煙成功率を1/3低下させているという結果が発表されました。一方、禁煙外来を受診して、薬物療法を受けた人は、禁煙の成功率が1.9倍に上昇しています。研究グループは、「新型たばこは喫煙の全体的な減少につながる可能性は低く、禁煙の手段として推奨すべきではない」としています。

また、新型たばこの使用者は、紙巻たばこに移行する率が高いことが、海外の調査で明らかになっています。

〈新型たばこの分類〉

- 1 電子たばこ(液体を加熱してエアロソルを発生させ吸引するタイプ)
 - (1) ニコチンを含むもの(ENDS) *日本では医療品医療機器法による規制で販売されていない
 - (2) ニコチンを含まないもの(ENNDS)
- 2 非燃焼・加温式たばこ
 - (1) 葉たばこを直接加熱し、ニコチンを含むエアロソル吸引するタイプ
 - (2) 低温で霧化する有機溶剤からエアロソルを発生させた後、たばこ粉末を通過させて、たばこ成分を吸引するタイプで、電子たばこに類似した仕組み

*下記ホームページ参考:

厚生労働省・日本循環器学会・日本呼吸器学会・日本心臓学会・国立がん研究センター・禁煙推進学術ネットワーク